

「就活のはなしをされて／ものくろの躑躅を／ひろうようにうつむく」さいう（石川県）
「躑躅」の漢字の不気味さを際立たせるために「ものくろ」をひらがなで表記するなど、強度のための工夫が見て取れます。「ものくろの躑躅」は憂鬱さの表出において的確だと思います。

「冬の雷うしろに立たれるのが嫌い」あお（奈良県）
「雷」と「嫌い」の二つの言葉がつり合っていて、ふしぎな安定感が生まれています。

「一駅で息継ぎをして青空を／尾まで満たして潜る地下鉄」花野 木春（東京都）
巨大なものが視界をおおきくジャンプする。こういうものが時空を泳いでいても不思議ではないと思わせます。

「マジックの種を明かして帰るたび／あなたの部屋が遠くなるよう」雲理そら（大阪府）
創作において手放してはいけないものの一つに「謎」があります。それはあらゆるモチベーションに接続するものであり、「私」を「私」以上のところへ連れていってくれるものでしょう。

「繋がれに行く犬春の雲降りて」檜野 美果子（宮城県）
繋がれに行く犬のすがたが脳裏をよぎります。見た経験があるのか、ないのか、定かではないところがむしろよく、此岸と彼岸の間を照らすかのようにです。

「爪切りがえんえんと吐く細い月」石村 まい（兵庫県）
爪切りと爪の関係のなかに挟みこまれる「えんえん」が効いています。

「陽が透けて宝石めいたセルフレジ」クイスケ（栃木県）
なぜ「セルフレジ」なのか、なぜ「宝石めい」ているのか。わからないまま惹かれます。

「あさがおをこころの中で／抱えてる／ピーヒャラ、ピ／ずっと会いたいよ」松浦やも（東京都）
「ピーヒャラ、ピ」の諧謔が頼もしいです。感情の翳りをさりげなく凌駕しています。

「しょんぼりは／こんなかわいい音なのに／ひとのかなしみのせてうつむく」にわ（栃木県）
たしかに「かわいい」音ですね。よく見れば、かたちもけっこうかわいいかもしれません。「かわいい」の意味の深さを発見しています。

「絶望をするように／盲信するように／切手の糊にふれる舌先」湯島 はじめ（東京都）
絶望と盲信の同義性を引き出しています。そのことを告発するかのような鋭さがあります。

次回も投稿を楽しみにお待ちしております。